

# 弥富市の現況等に対する 審議会委員意見

令和4年12月

弥富市

# 1 『人口減少、少子高齢化の進行』

## 【現況等】

本市の人口は平成22年まで増加してまいりましたが、平成27年から減少が始まり、今後もその状態が続くことが推測されます。年齢構成は、年少人口が減少する一方で老年人口は増加を続け、高齢化率は昭和60年から30年間で約2.8倍となっております。自然増減におきましては、平成28年以降、自然減の状況が続いております。合計特殊出生率は、県全体とほぼ同じ数値となっておりますが、15歳～49歳の女性人口が減少していることもあり、出生数の増加に結びついていない状況であります。社会増減におきましては、平成29年以降は転入者数の増加に伴い社会増となっており、名古屋市、津島市、愛西市、蟹江町など近隣自治体との間では転入が転出を上回っていますが、反対に東京圏の間では転入に対し転出が多くなっております。男性は大学進学等が想定される10代後半の転出超過に対し、Uターン就職等が想定される20代前半が転入超過となっておりますが、女性は、男性同様20代前半が転入超過であるのに対し、30代で転出超過となっており、子育て世代の流出が考えられております。

## 【委員意見】

1	若者の結婚離れが問題
2	弥富市に限らず、全国的な傾向です。 その中でも実際に人口が増えている自治体もあります。 その特徴は、子育て世代の人口割合が多くなっています。 安定した雇用環境と住環境整備や子育て支援が必要かと思えます。
3	子育て世代の流入の推進を図る。 出産育児に対する手厚い支援が必要となる。核家族、共働きが常態化する現代また未来において、乳幼児など子供の預け先を多く整備し、職場復帰のしやすい街として若い世代の流入推進を図る。また、それに伴う子育て支援、安心して住み続けることが可能な街づくりが必要。
4	結婚支援については、ITを導入し、独身者は登録を促す。又、男性の結婚が成功する研修をすると良いかと思いました。今までは男性は弥富出身で在住とされていましたが、反対の発想で女性は弥富で、男性は他の市町村でも弥富に移転して頂ければ可能になると良いかと思えます。弥富市主催イベントの婚活・賞品又はお祝いなど何年間は市民税を1人分免除、固定資産税を安くする処置をとる方法をとると、移住者は多くなるかと推測します。もちろん子供多数の世帯はお金がかかりますので、それらの税金を安くして頂くのが一番人口を増やす糸口になるかと思えます。 働く女性が多くなってきていますので、子育てが出来やすい環境は必須で女性の立場に立って、今何の援助が必要か個々のニーズを引き出すサポートが必要かと思えます。
5	・子育てするなら弥富が一番よいと思われるような支援をする。

6	<p>弥富市南部の臨海部には多くの企業が立地しており、臨海部で働く従業員の方々が近隣で生活できる環境を整えることで、市の人口増加に寄与することができる。</p>
7	<p>今後、急速な少子高齢化が進み、生産年齢人口の減少と高齢者の総人口に占める割合がさらに情報を続けることが見込まれます。ハローワークにおいても、高齢求職者は増加傾向にあります。これは65歳までの雇用確保措置が義務づけられていることや65歳以上の労働者も雇用保険の加入対象となったことが要因で増加しています。</p> <p>それでは、どれくらいハローワーク津島の高齢求職者が増加しているか、3年前と比較しますと、</p> <p>令和4年9月 65歳以上の新規高齢求職者 126人（全体705人 占める割合17.9%）</p> <p>令和元年9月 65歳以上の新規高齢求職者 93人（全体710人 占める割合13.1%）</p> <p>また、高齢者等の雇用の安定等に関する法律では、令和3年4月から、70歳までの就業確保措置が努力義務となりました。</p> <p>こうしたことから、65歳以上の高齢者が占める割合が増加するなか、同時に職を求める高齢者が増加することが予測されますので、高齢者の皆さんが豊かな生活を営むうえで、就業機会が確保できる体制づくりが重要と考えます。</p>
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援施策も様々な取り組みを頂いているところであるが、女性活躍への支援もこの課題には重要な要素と考え、現在の保育所、児童クラブ、児童館の開所日・利用時間の拡充により、会社勤めの母親にとっては、会社と家庭の両立に大きな支えとなると考えられる。</li> <li>・主要駅までの交通手段とする「きんきんバス」の増便と駐車場の追加により、子供の通学支援とともに、育てる親側に対する一定の支援となる。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住居のエリアによっては、公共交通機関、道路整備等やインフラ整備の拡充</li> <li>・弥富市に住みたくなる、弥富市の特徴になる政策とその発信方法</li> </ul>
12	<p>人口減少の対策としては、やはり住みよい街作りの観点から、子育て応援、学費等の支援、医療支援等の生活応援が重要になると思います。少子化の進行については、子育て支援等に対する補助支援金等の検討が必要だと思います。</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職をきっかけに弥富市に転入した市民が、結婚・出産後も定住するための子育て支援。特に、競合自治体との住民サービス比較を行い、劣っているものについては出来るだけ差を埋める一方で、金銭的な補助支給よりも、弥富市独自の模倣が難しいサービス提供を行い、積極的にアピールすべき。</li> <li>・女性が就職・結婚・出産後も定住する為には、「女性が働く職場」ではなく、「女性が活躍出来る職場」が必要であり、どのような業種を誘致すべきか研究する。</li> </ul>

14	<p>人口減少を少しでも止める方策として、いろいろな施策を今まででも展開している。追加検討願いたいのは、市内に宅地を持っていないと新しい家庭を築くための宅地を手に入れるのが困難な点の改善。②子育て支援に結婚から妊娠、出産までの相談窓口をわかりやすく、SNS等で発信 ③少子高齢化の進行を止めるにはまずは弥富市に住み、出産、子育てをする環境を整える、つまり弥富に住むメリットを感じてもらえる施策がもっと必要。支援金、補助金制度の充実</p>
15	<p>人口増減は課題ではなく現象として捉え、人口増減によって行財政運営、市民生活にどのような影響（問題）が起きるのかを想定して備えることが重要と考える。自然減による人口減少は避けられないため、備えるための現実的な対策を重視する必要がある。とはいえ、少しでも人口流出ないし減少を食い止めるような政策展開も必要である。雇用の創出、転入促進、子育て支援、安全安心で魅力あるまちづくりを推進して社会減を阻止する。ただし、近隣市町村と人口の奪い合いをするという発想ではなく、互いに持続可能な社会を維持していくことが重要であり、多様な属性、個性、ニーズを持った住民がそれぞれ「生きやすい」と感じられるような地域を創出していくべきではないか。</p> <p>したがって政策展開の方向性としては以下の2つが考えられる。①人口減少のペースに見合った行政のコンパクト化（備え）。これは成長志向からの脱却を指し、人口減少および住民の年齢別のボリュームゾーンの変化により公の施設へのニーズも変化することが予測されることから、集約化、質の転換等を含めたきめ細かなマネジメントが必要となる。行政単独でのサービス提供やサービスの量的拡大といった発想から脱し、多様な主体の「生きやすさ」を提供できるような政策展開を多様な主体の参画のもとに実施する。</p> <p>②人口流出、減少を食い止めるような政策展開（攻め）。これについては多様な主体（民間企業、市民団体、NPO等）との連携によって、シティプロモーションを行い、地域の魅力のブランド化（生活の場面に即した付加価値、利便性等）を行う。また、ターゲット別の政策パッケージを明確に打ち出すことにより、選ばれる地域づくりを進める。対象者に確実に訴求力を持って届けるためには、政策のパッケージ化は必須であり、それを打ち出す情報発信ツールの多様性も求められる。つまり、従来型のいわゆる縦割りの施策は供給者サイドからの見方であり、そうではなく政策を必要とする人に届くようなパッケージ化（需要者サイド、市民側）からの施策展開が必要になってくると考える。</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣自治体との間では転出超、女性の30代は転出超(子育て世代の流出)の背景は何か。解消が可能な要因があるなら、対応策を練る必要がある。</li> <li>・弥富市が実施している経済的な子育て支援について伺いたい。</li> </ul>
17	
18	<p>日本の総人口の減少は、合計特殊出生率の低下と長寿社会の到来から少子高齢化が進んでいます。弥富市においても、この状況は変わらず高齢化が進んでいます。ただ、人口流動においては、世帯数は増加傾向にあり流出人口が流入人口を上回るもののその差は縮まっています。これは、弥富市の強み(特徴)である広域交通アクセスの良さ(名鉄尾西線、近鉄名古屋線、JR関西本線、国道1号、23号、東名阪自動車道、伊勢湾岸自動車道)が影響していると思います。弥富市に住みながら名古屋など近隣地域で仕事ができることは、子育て世代の住みやすさにつながります。更に、子育てしやすい環境づくりを整えることで弥富市への定住が図られると思います。また、転入してくる世帯が地域へ溶け込みやすくサポートする事も大切だと思います。</p>

19	<p><b>【子育てしやすい街づくり】</b></p> <p>子育て世代の流出を防ぐためには、子育ての困りごとやニーズに合わせた商業の発展、公園等を充実させる必要があると思います。また子育て世代が孤立しないよう、集いやすいイベントや場所の提供、赤ちゃんの駅（授乳やおむつ替えができるスペース）の設置を積極的に取り組むことで若い方々にも生活拠点として選んでいただけるのではないかと思います。</p>
20	<p>流出データは、厳密に子育てのしにくさでの流出なのか、晩婚結婚での転居なのか確認したい。どちらにしても、結婚や出産でのメリットをうちだす必要がある。しかし、それは弥富市が子育てしやすい街を目指すのかどうかによる。逆に単身者が暮らしやすい街を打ち出すのであれば、一人暮らしにも便利で暮らしやすいメリットを打ち出し、交通の優位性を活かし、名古屋駅周辺の都心部の大学・短大や専門学校に通う学生をターゲットにし、各学校との連携強化や学生向け施策を生み出していくこともありかもしれない。学生世代に魅力ある街と感じられれば、定住化・人口増の方策のひとつになるかもしれない。また、港湾部の企業に就職のために転居してくる方へ、港湾部の企業と連携し働きやすさ暮らしやすさを追求する視点も必要かもしれない。そもそも弥富市は人口を本気で増やしたいのかも目指す方向を明確にしたい。静かな落ち着いた街を望む市民もいるかもしれない。（街の活力を維持するなら人口減を甘んじて受け入れるのは考えにくいけれども）。弥富市民がなぜ弥富市に住んでいるのか（特に外部からの転居しての定住された市民）の理由を行政として把握しているのかどうか。それがそのまま人口増のためのヒントになる。</p>

## 2 『新たな市の魅力と賑わい交流拠点の整備』

### 【現況等】

令和4年4月に旧図書館棟をまちなか交流館と名称を改め、1階に歴史民俗資料館、市観光課が移転し、2階に市民活動スペースの設置、さらに10月には弥富金魚水族館（ヤトミアクア）を開館いたしました。新たな観光振興や交流拠点の推進、文化や自然、歴史など本市の魅力を外へ発信し、人が行き交い、賑わいあふれるまちづくりを目指しております。また、名古屋競馬場が令和4年4月から本市に移転しており、新たな賑わいの場としてスタートしております。今後の大きな事業としましては、JR・名鉄弥富駅自由通路及び橋上駅舎化事業並びに弥富駅北口駅前広場等整備事業を予定しており、利便性を高めるとともに駅周辺の一体的なまちづくりを目指しております。

### 【委員意見】

1	地元で働く人を推奨できるよう、働き先の多様化を進めてほしい。
2	市の玄関でもある駅を整備し、市の地場産業でもある金魚を大きくPRしてはと思います。
3	市の魅力づくりをソフト面に多く注力するのか、ハード面にするのか方向性が必要となる。 例えば、ソフト面の構築を行政が主となり、ハード面は民間企業に広くアプローチし誘致する。
4	何が足りないか？観光すると宿泊が必要。弥富にはないのでぜひ。 高速下の周辺にビジネスホテルの建設を促す努力を。弥富市職員が営業をすると良いかと思います。 名古屋競馬場からリターンの馬を馬車にし観光めぐり。そのまま弥富市内の観光コースを入れ込み、長島温泉に行くコースを作る。目玉にするイベントに合わせ観光するなど、JR、名鉄弥富駅自由通路及び橋上駅舎化事業については、災害シェルター、核シェルターを兼ね備えた店舗施設を開設して、弥富を利用・買い物していても安心安全と謳うのも良いかと。又、周辺にはクリニックの開設及びスーパー以外の商店（個人）の出店を促し、歩いて買い物ができる高齢者独居の居住も兼ね備える。
5	・駅前整備が弥富全体の発展になるような整備を望む。 ・駅周辺にホテルなど宿泊施設の整備を考えてはどうか。避難施設を活用できるから、誘致をしたらどうか。
6	弥富市南部の臨海部には多くの企業が立地しており、企業集積のポテンシャルを生かし、産業観光を図ることで、地元立地企業への関心を高めるとともに、観光資源としての活用を図る。
7	
8	

9	名古屋の中心と弥富を結ぶ、強力な交通手段を整える必要があるのではないか。現在は近鉄以外は便数等を考えても今後多くの人利用する交通手段となり得ないのではないか。桑名のようにシャトルバスを頻繁に走らせるなども一つの方法か。また、弥富市には市バスがない。各地から弥富中心部へのアクセスをよくするための公共交通手段の強化も必要ではないか。 同時に、利便性がたかく賑わいのある総合ターミナルを整備できると良い。その際には是非ホテルなどの宿泊施設も併設していただきたい。
10	・今後の弥富駅の開発とともに、新しい魅力の創設を同時進行させなければ、大きな弥富市の魅力は生まれなため、一例として弥富市主催による河川敷や海岸での花火大会や観光拠点でのイルミネーションなど、他の地域からの関心を引くことが、しいては弥富市民の満足や、自分の市に誇りを持てるようになるのではないかと思います。本来なら古くからの伝統文化を発信することが大切だとは思いますが、これからのことを考えたならば、まずは誰でも関心を持ってもらえる起爆剤による相乗効果を狙うことが必要ではないでしょうか。 ・海南こどもの国などの公共施設のトイレの様式化と赤ちゃんシート、おむつシートの増設と遊具の見直し。
11	・異なる高速道路のインターチェンジがそれぞれあり、また国道もあるが、弥富に降りる目的がないので交流場が必要
12	JR・名鉄弥富駅自由通路の整備事業に伴い、近鉄駅との連絡通路の建設も含めて、駅前整備を進めていく事が、今後の発展につながるのではないかと？
13	市営のコワーキングスペースの設置。コロナにより働き方の多様化により、テレワークも増えており、市民が出社せずとも市内で働ける場や起業を目指す市民のたまり場として提供。またその場での人と人を「つなぐ」ためのイベント開催やコミュニケーターの配置により、特に移住世代（30-40代）の職場、家庭、近所以外の新たな帰属コミュニティを作る事で弥富市への愛着心を高める。
14	①玄関口の整備は必要。そこからまちの賑わいが始まる。せっかく市の将来のための施策をしているのにPRが少なく感じる。工事箇所にもっと魅力づくりのPRをしたらと思う。駅北に住んでいる人はこの整備計画にとっても関心が深い。②新しい賑わいとして、駅前開発と既存商業施設との共存も考えて欲しい。空き店舗の利用促進をしている事例はないか？あれば成功例として公表して欲しい。補助制度やまち歩き（点数制、謎解き）
15	
16	・交通の便の良さを活かし、駅前整備事業に絡めて大型商業施設、オフィスビル、ホテル等の建設を目指すべき。人口増加とともに他地域からの来訪者の増加促進を図りたい。
17	
18	「賑わい＝人が多くてにぎやかである」「新たな市の魅力」とすると観光の視点でとらえ、名古屋競馬場の活性化や弥富駅の再開発で駅周辺に人があつまる場づくりが大事に思います。そして、交流拠点として人が来るだけでなく体験的なアクティビティが整えられると、人が来るだけの賑わいではなく、交流する熱を持った賑わいが実現できるのではないかと思います。弥富金魚水族館(ヤトミ アクア)の常設金魚すくいなど魅力的に感じます。

19	<p><b>【誰もがチャレンジできる場所の提供】</b></p> <p>弥富市の公共施設で営利目的によるマルシェ等の開催が行いにくい。      営利がある時点で断られる。新たなイベントにチャレンジしたくてもできない。</p> <p>営利営業の制限をかけていると、商業の発展にもつながらず、いつまでも市内の経済が回らない。      公共施設での営利営業ができれば、各地区の公園や公民館を活用し、マルシェ等を開催。      ご近所同士がコミュニケーション取れる賑わいの場所になる。      今現在あるものを活用するの、にぎわいの交流拠点になるのではないかなと思います。</p>
20	<p>タイトルの「新たな市の魅力と賑わい」とは、なにを指すのか、どういう状態を理想の姿としているのか全く見えていないままに、抽象的な言葉遊びになっている。まちなか交流館の活用、発展にはとても期待している。弥富市民や市外から訪問する人が必要な、弥富のあらゆる街情報が集約され、発信される拠点となることを期待する。観光・市民交流に関しても、気軽に立ち寄れる場所としてまちなか交流館内の組織が有機的に一体となって施策を施行したり、弥富市としての発信戦略や広報戦略の司令塔となる位置づけになってほしい。駅の自由通路に関しては、個人的には反対、その進め方はまったく誠実さに欠けると指摘せざるをえない（説明会を一回しか開催しないで、会場で求められた再説明会もない、質問にまともに答えられない禅問答）、「駅前の賑わい」の具体像が何も描けていないのに、自由通路の目的のひとつとするのも違和感がある。全体予算とのバランス感覚に欠け将来の財政不安、さらに行政への信用不安、行政と市民の対立の大きな要因になっている。予算の大きな部分を占めるので、この問題について禍根をのこさないよう総括をもとめたい。その他、公共施設の再配置が進行するなかで海翔高校の廃校、十四山と南部学区の統合を目指しているが、その跡地利用も課題であり、どう活用するのかチャンスであると思われる。</p>

### 3 『市民協働の推進、協働のまちづくりの推進』

#### 【現況等】

まちなか交流館2階の市民活動スペースを拠点に、市と市民を繋ぐコーディネートの役割を担う中間支援団体の育成に向けた取組として、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、市民を中心としたワーキンググループである通称：ヤトミーティングと共に、誰もが活躍の機会を見出せるような仕組みや、市内のあらゆる情報、資源を共有できるような仕組みを構築し、協働のまちづくりを目指しております。

#### 【委員意見】

1	各学区のコミュニティ推進活動を支援して下さる団体、NPO等の紹介や斡旋をして手助けしてほしい。 南部地域は競馬組合さんとの連携を深める方策を展開してほしい。
2	コロナ禍で集まる場が少なくなったこともあり、人と人の繋がりも薄くなっている。 各種団体においても、会員数の減少に歯止めが効かない。 市としても、なんでもコロナで中止にしてしまうのではなく、どうしたら開催できるかを考えてほしいです。
3	現代社会において横のつながりが薄れており、また当市は地区が広く、まとめて市民協働を推進するには難しいと思われる。市民アンケートを実施し、世代や地区で何が必要で何をしたいのかを集計・分析し、外部有識者の先導により、協働での街づくりの推進が望ましい。
4	観光するなら自転車（無料で）雨が降ったなら傘が必要。観光先の所に返納可能なシステムを作って、リサイクルを再生利用するのが良いかと。それには住民を動かす、弥富愛を育てるのが大事かと思います。高齢化が進んでいますので、跡継ぎ問題、空き家が目立つようになってきています。何らかの対策をしていかないといけないかと思います。国がらみで問題となっているのは皆様も承知かと思います。 今までの動きでは、行政も大変かと。それらになる前に処置を取る対策も同時に進行する案を、又、高齢者の目線・障がい者の目線・子供の目線に立った道路も必要かと思いました。 自転車・歩行者を分けて、別の所を走ると安心して走れるのではないのでしょうか？ それにはやはり住民の協力が必要で、税金を少しでも安くなれば提供して頂けるのではないのでしょうか？（家の空き地などを通る方法、住民さんにアイデアを提供していく方法を取る等） 焼却炉建て替え時は、その周辺も観光視野を考えて、いつでも子供・大人が学べる、見学できる、遊べるイベントができる施設を未来に向けて整備をして頂けるとなおいかがい。
5	・地域の交流活動がコロナの広がりとともに減ってきている。地域住民との交流をはかるような活動に対して、支援が必要。

6	弥富市内にはいくつかのNPO法人や市民活動団体があるが、それらの活動内容がわかりづらい。これらの団体が一堂に会するイベント（市民祭り）を実施し、市民に広く知らしめる機会を増やすことで、市民参加の気運の醸成を図ることが期待できる。
7	
8	
9	2018年には海南病院の創設80周年のイベントとしてオープンホスピタルを開催した。お子さん向けの企画なども考え、多くの市民の方に、普段見ていただけない病院の内部を見ていただいた。将来医療従事者となってこの地域の医療を支えてくれる人を育てるためにも、今後もこのような機会を考えたいと思っている。
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども会がきんちゃんバスを利用させてもらい、歴史資料館や市役所など市の施設をまわるツアーをもっとアピールし、子ども自身に自分が住んでいる市のこと、市内であっても子供一人では行けないところをもっと知ってもらおう機会を与える。</li> <li>・福寿会加入者への市内お買物ツアーを定期的に開催する。</li> </ul>
11	・ヤトミーティングも良いですが、各自治会からも各地区の問題等の情報を共有して各地域からも盛り上げる
12	市民協働については、年々活動が難しくなっていると思います。人々の団体行動に対する考え方も、多種多様になっており、それに対応すべき活動等の意見を若い世代から求めて、新たなコミュニケーション活動を作成する。
13	市民が弥富市に愛着を持ち、結果的に市民参画につながるきっかけ作り。特に30代～40代の移住世代をターゲットにした、コミュニティ形成のゆりかごとなるコワーキングスペース設置。
14	<p>数年を掛けて参加者が減少している中、コロナウィルス感染症の緊急事態を受けてコミュニティ活動の運営が出来なくなっている。大変な事態ではあるが、ここは仕切り直しとして新たな協働活動を展開できるタイミングかと思う。</p> <p>今（ヤトミーティング）が新たな協働活動を支援する展開を始めている。市内の既存団体との協力体制の強化が必須ではあるが今後の展開に期待</p>
15	
16	
17	
18	<p>これまで、自治会等の地域組織で行われる地域活動が市民協働の中心だったように思います。しかしながら、自治会運営の難しさが出てきているように思います。そこで、「新たな協働の形」を模索していく必要があると思います。それは、目的に応じて連携する(協働する)主体を変えながら活動が相互にとって必要なものとなる事が望ましいと思います。つまり、お互いが必要とする協力関係を丁寧に構築していく事が重要に思います。例えば、防災で言えば自治会と行政の協力が必ず必要になります。逆にコミュニティ活動であれば自治会とNPOの連携(協働)があっても良いと思います。</p>

19	<p>【まちづくりに、敵も味方もない】</p> <p>市民、行政、議会と手を取り合いながら、まちづくりができれば良いなと思います。</p> <p>お互いの思いや知識を生かし、しっかりコミュニケーションを取りながら、より良いまちづくりを一緒にやっていきたいです。</p> <p>市民団体間の交流や意見交換の場も必要。</p>
20	<p>前年度スタートしたヤトミーティング活動が、市民協働のモデル事業として、行政側としても重要視され、さまざまな期待がかかっているのは理解するところ。（市民への認知度はまったく足りてないけれど。）ただ、ヤトミーティング活動のみが市民協働でもなく、総合計画でうちだすからには、弥富市行政すべての側面、すべての部署それぞれの施策のなかに、市民と協働する視点をもち具体的に市民と関わる活動があるべきと思われる。市民側にも行政側にも、行政と市民が一体ととなってまちづくりを行っていく実感を伴うものでなければならない。もっと行政活動をオープン知らしめていくことが望まれる。たんにパブリックコメントの募集ということだけでなく、定期的なコミュニティ単位やテーマ別の座談会・しゃべり場や出前講座をより積極的に取り組んだり、誰もがいつでも参加できる関わりしろの施策。お互いに知ることからはじめるとよいと思う（見学会、体験ツアーも単純に広報で募集するだけではなく、コミュニティの行事に組み込むよう企画を持ち込んだり、積極的に市民参加しやすい環境づくりを求めたい）、市民も無知がゆえに、すでに行っている行政サービスを利用しないままに、新規要望やクレームがあったりするのではないかと推測する。</p>

## 4 『災害に対する取組の推進』

### 【現況等】

本市は海拔ゼロメートル地帯が広がっており、災害に対するリスクを有しておりますが、東日本大震災以降、市民の防災意識が高まってきました。しかしながら新型コロナウイルス感染拡大の影響により各地区での防災訓練等が相次いで中止となっている現状であります。今後は、地域防災の要である自主防災会を中心とした自助・共助に加え、公助との連携を深め、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所運営が求められます。また、新たな避難場所の確保や民間企業等との災害協力協定の締結も進めていく必要があります。

### 【委員意見】

1	内水氾濫は農作物の被害が最初に現れます。 今の国の基準による制度ではとても間に合いません。 制度の改定を国に強く求めてほしい。
2	年に最低でも1回は市全体の防災訓練が必要ではないかと思えます。高齢者や障がい者などの情報など、自主防災組織の連携も必要だと思えます。
3	海拔ゼロメートル地域で一番心配となるのが水害である。 近年のゲリラ豪雨に対する対策は必須であり、堤防の強化と日々の点検を地域住民と共に行い、連絡体制の確立に取り組んで欲しい。
4	海拔ゼロメートル地帯は逃れられない事実。各自治体が動き出していますが、今一つ対策も考えていく必要があるかと思えます。 一般市民の新築の時には、浮く家の推奨、リフォーム時等資金面の援助、核シェルター、浮く家を兼ね備えた企業を呼び、提携を考えると良いかと思いました。
5	・東名阪の弥富地内にハイウェイオアシスの誘致をはかり、あわせて地震等防災避難施設とすることができないか。
6	弥富市の鍋田ふ頭と一宮を結ぶ路線として計画されている一宮西港道路は、海拔ゼロメートル地帯が広がる弥富市において、災害時の避難や救命、救急活動、支援物資の輸送を行う重要な道路であり、早期の整備に向けた取り組みが必要である。
7	

8	<p>毎年5月下旬に十四山西部小学校の児童と教職員の皆様が、垂直避難訓練を行うために本校（海翔高校）に来校されているが、本校は2年後に閉校を迎えるため、訓練ができなくなってしまう。</p> <p>また、本校は災害時の避難場所に指定されているが、閉校後は電気、ガス、水道等も止まるため、市民の避難場所としての利活用もできなくなることが予想される。周囲には高い建物が少なく、津波対策が欠かせないため、閉校後の災害への対応策を検討する必要がある。</p>
9	<p>海南病院は地域中核災害拠点病院にも指定されている。災害発生時の対応については定期的に訓練を行い備えている。傷病者の対応については、行政、医師会、そして病院を中心として役割分担を考えて備えるなどの準備も必要である。また、物資の運搬を考えておくことも重要であると思う。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害ハザードマップの無料配布。（スーパーなどで気軽に貰えると良い）</li> <li>・市内には高い建物が少ない地域があるため、飛島村のような避難所があると良い。</li> </ul>
11	
12	<p>自治体活動をもっと重視して、地域住民の交流を深め災害時の避難行動の円滑化を進める。</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の備えた市民の防災訓練への参加意欲向上につながる、コミュニティへの帰属心の醸成。</li> </ul>
14	<p>実際の災害時のシュミレーションを理解する必要。実動訓練を増やす、特に水害（津波、洪水）高齢者には発災時の動きの理解を増やす。言葉だけでは理解が少ない</p>
15	
16	
17	
18	<p>災害はいつ起きるかわからず、「備え」が被害を減少させる。「備え」として大事なのが、ご近所での助け合いができる関係「互助」だと思います。市民協働の推進とつながるところですが、自主防災組織の活動など地区で助け合う関係性を構築できるようにサポートしていく事が大切だと思う。その関係が、地域のコミュニティづくりにもつながる可能性もあると思います。</p>
19	<p><b>【災害に対する市民ひとりひとりの意識】</b></p> <p>地域全体の避難訓練や、俳優さんによるリアルな訓練、震災の語り部さんにお話を聞く会などいつ起こるかわからない災害をより意識し自分事に感じてもらうことが大事。</p>

20

市民の関心度の高いテーマという理解。また比較的防災に関する情報は、行政側も意識が高いように思う。解説にある各地域の自主防災会を主体とするのも理解はできるが、それが果たして地域の住民隅々まで防災・減災活動に繋がるかは疑問が残る。（自主防災会も自治会役員の兼務で負担が大きかったり、年配者ばかりの集まりになりがちでは？地区ごとに特徴もあると思われるので、各自主防災会がどんな活動をしているのか、全市で共有できるとよい）。一方、消防団組織の維持にも苦勞しているときく、その対策も知恵をだしたいところ。ひとつの提案としては、コロナ禍明けの対応かもしれないが、かつての弥富市総合運動会や、弥富市コミュニティにおける運動会事業などを、弥富市の運動関連のイベント事業をすべて防災運動会に衣替えしてはどうかと思う。プログラムすべてを防災に関わる内容にし、自主防災会や消防団の練度の高い地区が活躍でき賞金もだすくらい。会場も社協グラウンドだけでなく、木曾川河川敷を活用して、水害テーマのボート避難競技（体験）なども行ったり。各学校のマラソン大会も、避難経路を走ったり、チーム戦の避難誘導を体験するような実際の災害を想像できるプログラムを導入するなど。これまでの仕方なく防災訓練を行うのではなく、体験するイベントで楽しく参加するうちに、自然と市民の防災スキルが上がる仕掛けや仕組みにすることで、海拔ゼロ地帯としてもともと意識も高い防災が全市民の生活に溶け込むようにできれば、それが弥富モデルとしての特徴になろうかと思う。

## 5 『多様化する教育・保育ニーズへの対応』

### 【現況等】

本市におきましても家族形態や保護者の働き方など、子どもを取り巻く環境は多様化しており、保護者が安心して子育てができるようなサービスの拡充が必要となっております。保育所におきましては、今後一部民営化を予定しており、更なる保育サービスの向上にむけて取り組んでいるところでございます。また、小中学校におきましても少子化が進むなか児童生徒数が減少しており、子どもたちのより良い教育環境を確保するため学校再編に向けて取り組んでおります。

### 【委員意見】

1	小学校の合併を早く進めるべきと考えます。
2	GIGAスクールでは教員の知識が必要になってくるので、多忙な教員にその時間が取れるのかが問題に思います。 また、保育所では一日も早い民営化が望ましいと思います。
3	人口減少対策にもなるが、乳幼児の受入れ態勢を充実させ、核家族でも安心して子育てと就労ができるまちづくりを目指す。
4	保育士さんも人です。結婚もするし、出産もします。弥富市に勤めると同時に、ぜひ結婚したら弥富市在住の提案を。子育てするなら弥富市に在住する魅力があると自然に口コミで人口増加の糸口になるかと思えます。ぜひ3才児からの義務教育を勧めたいと思います。行政の財政には限りがありますが、日本初のモデルケースとしてメリットを考えると大きいかと思えます。虐待防止の早期発見、又、発育状態、精神状態、親の負担、女性しか子供は産むことは大変です。それらを考えると、行政から3才児からの義務教育として、又、担当になった保育士さんは親との相談相手として担って頂けるとなおいかが思いました。同時に市役所でその年の出生数はわかりますので、保育士さんの確保が把握でき、準備が可能かと思えます。
5	・子供1人1人に対応できるような教育、保育をめざす。
6	弥富市南部の臨海部には多くの企業が立地しており、企業集積のポテンシャルを生かし、社会見学や産業観光を図ることで、学生や市民が先進的な技術に触れる機会を生み出し地元企業への関心を高めるとともに、地域経済に貢献しているというイメージアップ効果を生み出す。
7	

8	<p>少子化による生徒数の減少への対策と、教職員の働き方改革の促進を目的に、来年度以降、休日の公立中学校の運動部活動が段階的に地域移行されることが発表されている。今後3年間で「改革集中期間」と位置付けられているため、全国の自治体で休日の公立中学校の運動部活動の地域移行が進むと思われる。ただ、先行実施した102の自治体では、様々な課題が浮かび上がったとの報道を目にした。弥富市でも、休日の公立中学校の運動部活動の地域移行を順次進めていくことになると思うが、受け皿（活動場所・団体等）と担い手（外部指導者）の確保の問題、受益者負担からくる家庭の金銭的負担の問題等、様々な課題を解決し、これまでの学校部活動のように、希望する生徒が希望した競技・種目を選択でき、継続的に活動できる仕組みを構築する必要がある。</p>
9	<p>大学がある街は何となく活気があるという印象を持っている。弥富市にも大学が誘致できないか。特に医療や福祉系の大学を誘致できれば、専門知識を持った若者たちの中で弥富に定着する人も増えるのではないかと聞いている。</p> <p>そのためにも、名古屋の中心と弥富を結ぶ強力な交通手段を整える必要がある。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所・学校での校外教師による体操、音楽、英語などの教育。</li> <li>・ 保育所の利用時間の延長。</li> <li>・ 室内温水プールの新設。</li> <li>・ 保育所も民営化されるのが良いか分からないが、市立は仕事のやり方が古いため、若い先生方が育つ前にどんどん辞めてしまうと聞いている。</li> </ul>
11	
12	<p>保育士不足などの対策として、保育所の民営化を進める。</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育士・教員ともに余裕のある人員配置を行う事が、多様化するニーズへの対応の第一歩。</li> <li>・ 弥富市らしい特色のあるサービス提供。例えば、学童保育の保護者の負担がない、自治体主導での運営。学童保育・保育所での習い事提供サービス。小中学生の異文化コミュニケーション教育。</li> </ul>
14	<p>前提として小規模校の解消がある。今市内でこの議論が進んでいる。必要なことと思うので丁寧な説明で保護者、住民に理解を求めて欲しい。その上での環境整備と思う。</p> <p>保育所の民営化は市営保育所との違いに不安がある。</p>
15	
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校の再編と保育所の民営化は、住民の意向を十分に尊重しながら、可能な限り進めていくべき。進捗状況を市側に伺いたい。</li> </ul>
17	

18	<p>社会の変化から、各家庭での子育て、教育・保育へのニーズは多様化しています。しかし、「家庭任せ」にしない地域社会が子育てに関わる必要があると思います。特に学校外で教育を受ける機会が増えていると思います。そこには、家庭による差が生まれている気がします。放課後に子ども達が充実した遊び、勉強やスポーツに取り組めるようにサポート、新たな仕組みが求められていると思います。</p>
19	<p><b>【個性を生かす教育を】</b>      これからは個が大事になる時代。      今までのキャリア教育で扱われていた職業がなくなる可能性もある。      それぞれの個性を生かし、伸ばしていく教育が必要になっていくと思います。      学校教育以外でも、多種多様な大人と関わりが持てる場所が必要になってくるかと思っています。</p> <p><b>【様々な働き方をサポート】</b>      多様化する働き方に寄り添ってくれる、保育のサポートがあれば、女性の活躍できる社会にもつながります。ニーズを調査し、細かく対応できる整備が必要かと。</p>
20	<p>少子化対策、子育て支援充実の特長をだせる施策になると思われる。公務員定数問題とからむ保育所民営化は丁寧に進めて欲しい。学区の統合も単に人数合わせの視点ではなく、弥富らしさあふれる教育体制に刷新する視点でおこなって欲しい（弥富の教育とは何かの定義づけを今一度明確に構築も必要か）。学校教育にも独自性を発揮できれば、1の子育て世帯の流出を防ぎ、人口流入をしかけていける可能性もある。そのためには、先進の保育、学校教育をもっと関係者が頻繁に学べ特徴ある施策を現場が打ち出しやすいサポート体制を構築されたい。現実には、弥富市の教育現場ではIT化も遅れている、新たな教育にもなかなかチャレンジできないのは、現場が疲弊しているからと思われる。その対策としては、現場で対応に苦慮している課題を抽出し、たとえばモンペア対策や不登校、発達障害、部活など、各現場丸投げでなく、行政や市民も巻き込んで全市で引き受けるような？、保育士や教師の負担を軽減し、前向きに取り組んでもらうために、まず無駄な業務をなくするのが先かと。教育にも市民協働は多いに関われる部分はあるのではないかとと思われる。通学同伴だけでなく、もっと関わりしろができそう。PTA活動も過去踏襲でなく、無駄な会議を減らすリモートで済ますなどのIT活用と合理化、また、参加も保護者だけでなく、三世帯で対応したり近所の人たちも参加など、さまざまに発想を膨らますことはできるように思う。地域全体で弥富の子供たちを育む、守ることが子供たちの防犯にも繋がる。</p>

## 6 『農水産業、商工業の振興』

### 【現況等】

稲作を中心とする農業や金魚の養殖といった水産業は、本市の特色ある産業として発展してまいりましたが、担い手の減少や高齢化、後継者不足が深刻化しており、産業の衰退が懸念されております。そこで、農産品のブランド強化や収益力向上を図るため農業者を支援する必要があります。また、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、商工会の支援と強化、商店の維持・活性化の推進等により商業の振興、持続支援を行う必要があります。

### 【委員意見】

1	出荷作業に手を焼く農家は多くおられ、長時間の作業が後継者不足の原因です。荷作り包装作業に手を貸すことはできませんか？
2	
3	魅力あるまち、住み続けるまちに欠かすことが出来ない、商工業の振興について ①商工業者の成長と持続的発展につながる購買システムの構築 ②創業者支援への取組み強化 ③地域資源を活用した「弥富ブランド」の確立
4	弥富市から目玉となる、ふるさと納税品を生み出す必要があると思います。 例：医療・農家と連携し、糖尿病・高血圧・感冒・コロナ・脳梗塞・心不全・癌・痛風・甲状腺（橋本病・バセドウ病）等、免疫を高める、予防するためには、疾患に合わせた野菜、自然食品のセットを紹介し、生産者の顔のわかる写真を提示し、広告を作るなど、ネットで紹介していくと良いかと。弥富市の金魚も育てやすい時期にふるさと納税に入れると良いかと思いました。弥富市の商工会には今一つ活性がないと思いました。何か対策を。弥富市の商店を偏らない。平等に。皆を巻き込む観光も。楽しくする方法を考えていく。
5	・農業への新規参入者の育成が急務。農地の流動化とともに、相談者の技術サポートや、資金、地域の受入れなど体制づくりが必要である。 ・コロナ禍、原材料の高騰など、産地の存亡がかかっている。支援が必要。 ・佐屋高校が文鳥の繁殖に取り組んでいただいているが、弥富市として取り組んだらどうか。
6	弥富市の南部地区は、臨海部にアジア貨物を取り扱う鍋田ふ頭コンテナターミナルが立地するとともに伊勢湾岸道路が東西に横断する、物流の要所となっている。 伊勢湾岸自動車道沿線において、物流センターが相次いでオープンするなど、物流企業立地のポテンシャルが高まっており、さらなる企業立地の促進により、新たな雇用や貨物の創出が図られる。
7	
8	

9	
10	・弥富市に道の駅が無いことから、弥富市と周辺地域の農産物の販売（アピール）スポットを新設し地域農業の活性化を目指す。
11	・農業でのICTの技術が多く開発されるようになり、有効利用するためのインフラ整備
12	地場産業である金魚養殖の後継者不足による経営体減少に歯止めが利かないのを踏まえ、今以上の御支援をお願いしたい。またそれに対するアイデア等をお願いしたい。
13	・生産性向上、技術革新に取り組んでいる企業・団体を奨励する仕組み作り。また、スタートアップなどの、新領域ビジネスをスピード感をもって生み出す仕掛けとの連携。
14	現在努力して経営している業者の方が今後も弥富市で頑張ろうと思える施策を業者の方と一緒に展開し、その様子を消費者にも見える形にする。 （イベントや写真展など） 学校との連携で新しい企画を展開。
15	
16	・グルメはトレンドであり続けているので、観光振興のためにもさらに注力したい。「やとみスイートハートプロジェクト」は最初の試みとして評価できるが、効果はどうか。新しい特産品を生み出して全国にPRするといった、より直接的な施策が必要ではないか。
17	
18	弥富市の特徴として知られる「金魚」の産業が抱える課題について、取り組む必要があると思います。金魚需要の減少から、金魚養殖者数の減少へと推移しています。そこで、生産技術の向上、後継者育成、PRの取り組みなど金魚養殖の振興を図ることで、弥富市の強み(特徴)を伸ばし、弥富市の産業全体へプラスの影響が生まれると思います。
19	【特産品で産業や商業を盛り上げる】 食の特産品を作り、販売できる場を増やす。 JAでの販売や新たに弥富に道の駅があると市外の方へのアピールに繋がる。 IT活用で農業の担い手不足も解消できるのではないかと。

弥富市でこの分野のビジョンがまったくないように見えるのを危惧している。計画に並ぶ言葉は、当たり障りのない説明で、具体的に何をやっているのか？まったく見えない。実感がない。金魚と農業（米作、トマトなど）振興も単に前例踏襲。果たして、振興策が効果があがっているのか、効果が乏しいのかも共有されていない。市民には伝わっていない。鍋八さんのような最新モデルを全市の農家さんで共有する機会はあるのだろうか。JAへの遠慮？配慮？があるのか、積極的な方針を打ち出しにくいのか、よくわからない。弥富の農業でもイノベーションを育む施策をとっているのか、いないのか。JAと組んだり、民間企業の先進的な取り組み支援する体制があるのかどうか、ないなら構築できると良いのか…そもそも農業を振興したいのかもよくわからない。商工業に関しても商工会をまったく活かしていないのはなぜか。あえて関わらないようにしているのか、丸投げしたいのか、わからないが…金魚と文鳥には観光課が積極的になってきたのは理解するが、それ以外の産業全体をどうしていくのか、商業をどうしたいのか、工業をどうしていくのか、港湾部をどう活用していくのか、働く場としての弥富を想像しにくいのはなぜか。観光に関してはどうしたいのかがみえない。ビジョンがみえない。ただいまあるものを紹介するだけのよう。新しいことに挑戦しづらい組織なのか環境なのか…。せっかくの交通の便の良さをいかしきれていないのではないか。物流の街をめざしているのか？？目の前のあることに手を出すのではなく、この分野はまず弥富市の農商工ビジョンを固め、全市で共有することが先のように思う。もし、ここに述べた心配ごとは実は杞憂で、実際には目指すビジョンが明確にあって、いろいろな施策を行って成果が出ているのであれば、この分野での一番の問題・課題は情報の共有や伝え方ということになる。

## 自由記述欄

### 【委員意見】

1	ヤードが駐車場の付近で路上の降車作業が横行しています。 行儀の悪い業者を取り締まる制度（営業の一部停止等）の制定はできませんか？
2	
3	きんちゃんバスの利用が少ないと感じられるが、本数や時間と経路、また車両の見直しが必要と思われる。電車のように普通と急行などの区分、また通勤・通学時間にスピード優先とした経路やバス停とするなど。
4	<p>弥富市職員に聞きたいです。弥富市職員さんは毎日ワクワクしていますか？</p> <p>最近ワクワクしたことは何ですか？弥富の魅力はどこですか？</p> <p>何で弥富市に住まないのですか？（住んでいない人にお聞きします。）</p> <p>申請書がわかりにくいし、書きづらいので代わりに書いて読んで欲しい方の対応は？</p> <p>弥富市の利点、弱点は？SPOTは何がありますか？</p> <p>住民・行政・携わる人々が一丸となって、問題に危機感を持って対応していくことが望ましいかと思いました。</p> <p>追伸 ふるさと納税の売り出しを品数多く提供し、時代に合った利用者様のニーズに合った商品を提供し、編集アプリの使用権利と契約したりして、写真で紹介、動画でPR等の処置が好ましいかと思います。</p>
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	弥富の魅力を発信するために、弥富コンテナふ頭又は、富浜のゴルフ場南の高潮防潮堤あたりに、海釣り公園を整備したらどうか？
13	・競合自治体とのサービス内容比較を行い、定住検討する際の弥富市の強み・弱みを可視化し、分かり易くアピールする。

14	いろいろな人に今の弥富の実情をもっと知って欲しい。広報だけでなく、参加型のイベントが良いかも。参加すると何か良いことが、、、と思うことから関心を持ってもらう。施策実行には予算が必要となるが将来への投資として英断を願いたい。
15	
16	
17	6つの分野の現状について意見書の見本に書かれていることは、現状認識としてほぼ通底するところでは、特に異論はありませんし、屋上奥を重ねても仕方がありませんので、私からは特に付け加えることはありません。その上でそれぞれの分野で活躍されている地元の委員の方々のご意見を加味したものを尊重したいと思います。 ただ、防災に関して最近市がハザードマップを作成し配付・説明したというニュースを耳にしましたが、YouTubeやホームページの資料内容を拝見すると予想以上に厳しい内容だったので、総合戦略の観点から市民の方々がどのような反応を示されたのか気になるところです。
18	
19	
20	公募の際にも意見陳述しましたが、6項目について言及する前に、弥富市の基本となる、いわゆるBMV（ビジョン、ミッション、バリュー）をまず明確にしたい。あるならば、もう一度しっかり確認したい。いったい弥富市は、どんな街をめざすのかを審議会全員で共有しておきたい。弥富市の目指すべきあるべき姿を明確にしたうえで、各分野でそれをどう実現していくのか、という順序かと思う。現状、それが不明瞭のために、弥富市が何をめざすのかどこに向かっていくのか、市民にも職員にも理解がないために、分野が縦割りになり、前例踏襲、場当たりの、総花的な当たりさわりのない計画や言葉の羅列になり、全体のみえにくい魅力の感じにくい街づくり計画に陥ってしまっていると感じる。この機会にそれを打破し、弥富らしさ、弥富だからできることを職員が一体感をもって取り組み、弥富市民にもそれが伝わる計画にしたい。公募委員の応募の申し込み課題で「弥富のまちづくりのあり方」について記載した内容を、以下に一部転載しておく。【弥富市で、人（市民）が幸せを感じて暮らしていくには、何を大事にし、何を求め、何に価値を感じるか、どう関わりをもっていくのか、に寄り沿う考え方は重要と考えます。そのため審議会では、弥富市に関わるさまざまな人・立場（行政職員、市長、議会、各種団体、市民など）で、まず弥富市としての恒久的で明確なビジョンを描くこと、軸を決めること、ものさしを決めること、をしっかりと組みたいです。まず軸を決めることで、その後に具体的な組織ごとのまちづくりの姿が描けていくと考えます。計画の内容が掲げたビジョンに沿うかという視座がつねに判断基準になり、具体的な施策は、決めたものさしに諮ることで優先順位をつけることができていくと思います。そうして、計画が単に前例踏襲や声の大きい人におもねることなく、行政組織として、ビジョンを実現するためには何が必要か、なにをせねばならないかという考え方にかわり、そこに知恵をだす、協力を求める、というあり方になり、行政組織の誰もが主体的に能動的に計画を実行していける組織になりえると期待します。】転載ここまで。